

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373200298
法人名	医療法人 福寿会
事業所名	グループホームびっちゅう
所在地	岡山県高梁市備中町平川6385-10
自己評価作成日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3373200298-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成27年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで季節感も十分感じられる天空の里平川に当事業所は建っている。花・野菜づくり環境整備職員と共に和気あいあいと共同作業をしている。天気の良い日は散歩がてら金魚のえさやり、ドライブに出かけ気分転換を図っている。時にはテラスでティータイムを楽しんでいる。季節の行事も取り入れ地域住民に温かく見守られ楽しくのんびりとした生活が出来ている。利用者、職員共に落ち着ける場所となるよう工夫しながら日々頑張っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「天空の里」と言われる通り、天高くそびえる山の上の開けた場所に事業所はある。広々とした敷地、ゆったりとした建物は、利用者を穏やかな気持ちにさせる。自立支援を念頭に置き、手を出しすぎない介護を目指している。個々の能力に合わせ、掃除や身の回りの事など、できる事は時間がかかっても自分でしてもらい、待つことを大切にしている。地域性から、医療面での不安は否めないが、その分地域住民のつながり、温かさは心強い。職員も地区住民であり、何かあってもすぐに駆けつけられる環境である。外部評価に対しても、職員全員で取り組んでいる姿勢は、今後ますます介護の質を上げていく事につながると思われる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に基づいたケアが出来るよう情報共有し実践につなげている。	基本理念は玄関と事務所に掲示してある。ケアの基本である理念を共有できるよう、日々意見交換を行っている。全員に徹底するため業務報告書も作成し、回覧している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運動会お祭り等参加できる行事には出向き交流しているが日常的ではないと思われる。	盛大に開かれる地区の運動会に参加し、秋祭りでは伝統行事である「渡り拍子」の行列を楽しんだ。年末には地区住民が大掃除を手伝ってくれ、2月にはボランティアによる恒例の日舞を楽しみにしている。季節の野菜が届くことも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に生かせるよう考えている。	地区住民や介護保険課、包括支援センター職員の参加を得て、日常の細かいことも情報交換ができており、アドバイスを受けることも多い。参加者から介護についての質問が出ることもあり、相談・助言も行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を利用し報告相談している。	市の委託事業であり、その都度報告を行なっている。大きな修理等が発生した場合には、市と法人が話し合い、対処している。市で開催される研修会等には参加するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については十分理解しているがやむを得ず玄関の施錠をする場合がある。家族には理解を求めている。	安全のため、施錠や4点柵が必要な折にはご家族に理解を求め、説明・同意を得ている。言葉の拘束については、何が拘束にあたるのか、随時職員間で話し合い、気をつけている。来年度には研修会を計画している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度はおおむね理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解してもらえるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方とは面会時や手紙でご本人の状況を伝えている。	よく面会に来られる方には、その都度お話しし、要望を伺っている。お会いできないご家族には手紙を出して現状報告を行なっている。返事を下さる方もおられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議で要望相談できるが職員個々が意見を述べる機会はない。管理者と職員の意見交換は出来ている。	一年に一度は職員会議を開いているが、なかなか意見が出難く、毎日の介護の中で、話し合うことが多い。全員に伝わるよう、業務報告書を回覧し、押印をもらっている。	業務報告書は色々な視点から意見を発信できており、職員の資質向上に役立っている。今後は少しずつでも職員会議開催を増やし、記録を残していくことで、更なるステップアップを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えてもらっているようではあるが実感がない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量の把握は出来ていないように思う。取り組みへのはっきりとした情報があればよい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGH会議での情報交換相談等できている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者個々の話に耳を傾け安心して生活してもらえるように対応することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話はよく聞き安心できるように伝える事を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族利用者の思いに応じられるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の言いたい事聞きたい事に耳を傾け会話を重ね共同者としての関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を理解してもらえるよう発信している。その上で外出・外泊・面会の援助をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方は面会のお願ひもできるがその他は難しい部分もある。本人の中で忘れないよう支援に努めている。	お盆やお正月には慣れ親しんだ習慣が継続できるよう、外泊を勧めており、応えてくれる家族も多い。散歩に出掛けると近所の方が声をかけてくれ、近所の子供達が遊びに来てくれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う者同士が話をできる環境づくり、穏やかに過ごせる空間づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が出来るという意思表示はしているが実際にはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向については聞くよう聞き出せるよう工夫している。職員間で情報の共有をしている。	日常生活の中で、その人らしさを認め、主体性を大切にするケアを目指しており、傾聴を心掛けている。言葉が出にくい方からは、表情や仕草から、思いをくみ取る努力をしている。入居前にはご家族からしっかり情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の思いを把握しその日その時にあった方法で支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と必要な情報は共有し意思確認に努め職員のアイデアを生かすようにしている。	更新時には計画書の見直しを行っている。状態が変われば、日々の生活の中から情報を得、実践の中で変更している。家族には訪問時や、会えない場合は手紙を添えて説明を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務の中で常に情報交換をし実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけすぐ対応するように心がけ柔軟性を持って取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のやりたい事を支援することで生活を楽めたり本人の持つ力が発揮出来たりしお互い楽しめている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は近くの診療所で月1回診てもらっている。緊急時急変時はその都度受診。希望の医療機関も聞いている。夜間は法人の医療機関に相談し指示をもらうことができる。	医療面では地域的に十分とはいかないが、何かあれば救急車に対応している。日常的には週2回の診療所開設日に受診したり、希望があれば市内の病院まで受診同行することもある。ご家族にはそのつど連絡・説明を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回法人の看護師が訪問看護に来ているので相談でき指示やアドバイスがもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明している。	協力医療機関が近隣にないため、終末期の看取りについては難しい面が多い。慣れ親しんだホームで、できるだけ長く過ごしてもらえる様支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはある。応急手当、AEDの使用法、消火訓練など必要に応じてしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し利用者と共に避難訓練をしている。	年2回は避難訓練が行なわれており、夜間想定も行っている。2年に1度は消防署に依頼して、避難訓練と共に消火訓練やAEDの使い方の指導も受けている。地域がら、地区住民の協力体制は確立している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	傷つけないよう声掛け対応に注意している。	「たとえ認知症があっても、一人ひとりの利用者を一人の人間として見ることを基本において接している。トイレや入浴時には十分な配慮をもって行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを優先するよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配っている。他者に気づかれないよう手直しなどをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に出来る事をしてもらい食べたい物のリクエストを聞くこともある。季節感の感じられるものを提供し利用者と一緒に食事をしている。	明るく開放的な台所で、利用者はそれぞれでできる事を手伝っている。リクエストでお寿司や炊き込みご飯をする事もあり、誕生会には3時のおやつにケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた量を見極め支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はみがき・うがいの声掛けをしている。 週2回義歯洗浄をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況に応じ声掛け誘導し過剰な介助はせず自分で出来るよう声掛け見守りをしている。	入居時や退院時など、必要な時には排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握する。その後はそれぞれの方に応じた声掛けを行っている。自立の方も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動、水分補給等の声掛けをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日でき個々の希望ペースに合わせて行っている。	前日に入浴していない方を中心に行われる。希望者には毎日でも入浴してもらっている。1対1でゆっくり過ごせる貴重な時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調や気分により特に時間を気にせず対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように2人で確認し合っている。症状の変化には注意するよう日頃より気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の希望や職員の声掛けにてレクリエーションをし楽しんでいる。気分転換にもつながる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬季の外出は不可能であるが季節感を感じてもらえるよう散歩やドライブをしている。	冬季はなかなか外へ出ることができないが、時候が良い時には近隣へ散歩に行く。たまには手作りのお弁当を持って弥高山や自然公園に出掛けることもある。家族と一緒に、買物や孫に会いに外出される方もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域の実状もあり買い物の援助はしていない。現金の所持管理もしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族のみ希望にて電話の取次ぎはしている。 本人の希望により手紙の援助もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるよう工夫はしている。	広い廊下と太い梁、明かり取りの窓が印象的なゆったりとした明るい空間となっている。リビングの横にある畳部分は広く、こたつが置いてあって、昼食後はここでゆっくり過ごす利用者もおられる。壁面には利用者の作品や行事の写真、季節の装飾がほどよく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス廊下に椅子を置き利用者のみで過ごせる空間づくりをし職員はそっと見守りしている。冬季はこたつでくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、好みの雑誌など持ち込まれ一人気ままに過ごせるよう配慮している。居室は心地よく過ごせるよう季節により冷暖房をしている。	全室南向き、掃き出し窓の外はウッドデッキになっていて明るい。部屋は広く、収納も十分のスペースがある。壁面には家族の写真や手紙、行事の写真等を貼って、自分の部屋を演出されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが付いているので安心できるようである。認識が不十分な場合は目印を付けたり大きな文字で表示を付けたりしている。		